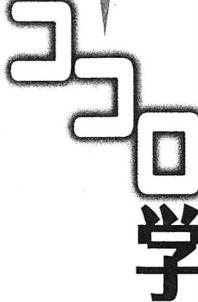


ちょっと



学 ウワサ == 重要 × 暖昧

サトウタツヤ

社会心理学なりでは、と言えるテーマの一つに「ウワサの研究」があります。結論を先取りするが、何かがウワサ(流言)になるのは、それが重要かつ曖昧な情報だからです。

めったに発生しないけれど発生すると大変なウワサとして「金融機関の破綻」があります。多くの人が自分の預金だけは解約しておこうと考

え、大騒ぎになるのです。

有名な事件があります。1

973年12月14日、愛知県A信用金庫B支店に大勢の人が集まりました。この信用金庫がつぶれるというウワサが流れ、それを信じた人が詰めかけて、他の支店を含めて26億円が引き出されたのです。

この事件は、ウワサの発端が突き止められた稀な例としても世界に知られています。警察が原因解明の捜査をしたからです。警察は、何者かがこの信用金庫を陥れようとしたからです。あるいは世の中全体を混乱に陥れようとして、意図的に流したと考えたのです。社会心理学ではウワサとデマを区別しています。ウワサは自然発生的に広がるもの。デマは「情報操作によって人を陥れようとする悪意ある情報」です。つまり警察は「デ

マ」と見立てたわけです。といふが、捜査の結果わかったのは、この騒ぎは女子高生同士の他愛ない会話から発生したということでした。

この騒ぎに詳しい木下富雄・京都大名誉教授によると、発端は6日前。ある女子高生がA信用金庫に就職が決まり友達に話したといふ、「信

トもウワサにはならない。たとえば「選挙の結果(得票数)

は、1票単位で正確に発表さ

れます。もしも選挙管理委員会が「△△候補、約1万票を得て、次点に約20票差で当選」と発表したら、多くの人が臆測を流すことでしよう。

重要な情報に空白が生じると、人はそれを埋めようと臆測を始め、その臆測を人に流すのです。それがウワサになるのは、テーマが重要だからこそです。

ウワサや、その結果としてのパニックを防ぐ立場にある人たちは、ウワサの法則を頭に入れ、重要な情報が曖昧にならないよう、常に心がけるべきです。情報を隠してウワサやパニックを防ぐことはできない、と社会心理学は主張しているのです。



の重要な)×A(情報の曖昧さ)に比例する」といふ仮説を提唱しました。

この式の面白いところは、「重要さ」か「曖昧さ」がゼロなら、ウワサは流れないとあります。曖昧でも、重要でないことがウワサになりません。たと

えば「私の歯ブラシが良いか

などがそれにあたります。だ

から、そういう情報を多くの人に伝えるには、広告や広報が必要になるのです。

重要だけれど曖昧でない」ともウワサにはならない。たとえば「選挙の結果(得票数)は、1票単位で正確に発表されますが、「△△候補、約1万票を得て、次点に約20票差で当選」と発表したら、多くの人が臆測を流すことでしょう。

重要な情報に空白が生じると、人はそれを埋めようと臆測を始め、その臆測を人に流すのです。それがウワサになるのは、テーマが重要だからこそです。

ウワサや、その結果としてのパニックを防ぐ立場にある人たちは、ウワサの法則を頭に入れ、重要な情報が曖昧にならないよう、常に心がけるべきです。情報を隠してウワサやパニックを防ぐことはできない、と社会心理学は主張しているのです。

(立命館大教授、心理学)